

# 時計台

SAPPORO INTERNATIONAL COMMUNICATION PLAZA FOUNDATION

# 前から

vol. 75  
April/2012

公益法人 札幌国際プラザ

〒060-0001  
札幌市中央区北1条西3丁目 札幌MNビル  
Kita1 Nishi3, Chuo-ku, Sapporo 060-0001  
JAPAN  
TEL:011-211-3670 FAX:011-211-3673  
E-mail: sicipf@plaza-sapporo.or.jp  
URL: http://www.plaza-sapporo.or.jp

北海道の森林保全と環境への配慮のため、道産間伐材を原料にした用紙、有害廃液の出ない「水なし印刷」及び大豆インキを使用して作成しています。



P02

## ■ 特集

### 世界の国々を紹介します ～SAPPOROこども領事 ほか



P06

## ■ 多文化交流

### 姉妹都市との民間交流を推進 ほか



P10

## ■ コンベンション

### 中国市場に攻勢を! 「さっぽろMICE」の魅力をPR ほか



P11

## ■ コンベンション

### Meet Japan 2012 ほか

# 世界の国々を紹介します SAPPROこども領事

市内の小中学生が外国公館等を訪問、コンベンションセンターで成果を発表

札幌国際プラザの財団法人化20周年を記念して、全国初の試みとして開催した「SAPPROこども領事」には、市内の小学校12校より、5、6年生48名が参加。去る12月10日(土)、市内9つの総領事館、領事館、通商事務所、名誉領事館の代表から、各国の「こども領事」に任命されました。



任命証を胸に記念撮影

「こども領事」はその後、グループごとに担当国の領事館等を訪問、領事館等の担当者よりそれぞれの国について学びました。訪問時にはその国の食べ物の試食や、伝統楽器に触れるなどの体験も。

初めて知ることが非常に多く、沢山の刺激を受けた子供達は目を輝かせていました。

領事館等の訪問準備から、訪問、学習内容のまとめ、発表に至るまでは、札幌国際理解教育研究会より延べ50名近くの先生に子供達の指導、サポートなどご協力を頂きました。また、市内在住の外国人の方のご協力も得て、



外国公館訪問

自分の担当国の出身者と初めて出会う機会を持った子供達も多くいました。

1月29日(日)には、共催団体である札幌コンベンションセンターの特別会議場を会場として、「こども領事」がそれぞれの担当する国について、その魅力や日本との関係など、学習した成果を発表しました。当日は発表者の家族や学校関係者など150名が観覧に訪れました。大きな国際会議場で多くの観覧者を前に、緊張感を高めつつも、「こども領事」は元気よく、それぞれに子供らしい自由な表現で発表をやり遂げました。

発表会後には、領事館等の関係者、父母らとともに、領事館等より提供を受けた各国の菓子などを囲んで交流。発表を終え、ほっとした子供達からは笑みがこぼれていました。

参加した子供達は、「実際に行ってみたい」など、外国への興味をより深め、将来国際舞台で活躍する人材へと成長することが期待されます。



発表会の様子

## 池上彰氏・高橋博史氏が講演 ～中東を知るセミナー～

2012年1月13日(金)午後6時より、札幌市民ホールにて、財団法人化20周年を記念し、「第19回中東を知るセミナー～イスラム・アフガニスタンを知る～」を開催しました(主催:(財)中東調査会・(公財)札幌国際プラザ、共催:外務省)。

今回のセミナーでは、NHKの記者を退職後、様々な時事問題をわかりやすく伝えるジャーナリストとして人気が高い池上彰氏、外務省国際情報統括官組織国際情報官(第二担当)の高橋博史氏の2名を講師にお招きし、約850名の市民が参加しました。

池上氏は「イスラム世界の基礎の基礎」というテーマに基づき、様々な国で発行されている世界地図



を実際に紹介し、それぞれの国・地域から見ることで位置が変わること、「中東」という表現についてもイギリスから見た位置であることなど、約1時間半にわたり講演を行いました。

高橋氏は「アフガニスタン・パキスタンをめぐる問題」をテーマに、国際テロや、イスラム過激派、核問題について、その背景や現状を画像、グラフを使いながら、熱い口調で話しました。



参加者からは「中東の知識がより深まった」、「とてもわかりやすかった」など、中東地域について興味や理解が深まったとの意見が寄せられました。また、講演の前には札幌交響楽団コンサートマスターの大平まゆみ氏による演奏会があり、参加者を楽しませました。

## ウランバートルでビジネスチャンスを探る「冬の見本市」

1月14日(土)、15日(日)の2日間、モンゴル国ウランバートル市で「冬の見本市」が開催されました。この見本市は、積雪寒冷地の都市が共通課題を話し合う「世界冬の都市市長会議」と併せ、2年に1度



冬の見本市

実施されるもので、国際プラザは、札幌市やJICA札幌、札幌商工会議所等とともに出展委員会を立ち上げました。

札幌・北海道からの出展企業では、山謙工業(札幌)、いずみガーデン(旭川)、旭栄工務(旭川)、ケイセイマサキ建設(新冠)の建設関連4社と札幌市防災協会がブースを設け、高断熱住宅や施工技術を



現地テレビ局の取材の様子

売り込んだほか、13社が資料の展示配布を行いました。

札幌・北海道ブースには2日間で約1,400名が来場。合弁会社設立や不動産開発の打診もあり、経済成長の一方で大気汚染対策等が課題となっている同市でのビジネスチャンスに手応えを感じました。日本の4倍の国土に、北海道の半分の人口が住むモンゴル、その豊富な地下資源には世界が注目しています。

## モンゴル経済の今を紹介

3月1日(木)、札幌市内のホテルで、モンゴル経済の現状を紹介するセミナーが開かれ、道内各地から企業経営者ら約30名が参加しました。このセミナーは、冬の見本市への参加を契機にモンゴルとのつながりを深めていこうと出展委員会が企画したものです。



モンゴルセミナー 投資局長(左)

初めにウランバートル市のテムルチュルン投資局長が講演。集合住宅や道路・橋梁等のインフラ整備需要が高まっていることをアピールし、日本の品質の高さや技術を学びたいと、道内企業のモンゴル進出への期待を述べました。



ウランバートル市 郊外

続いて、北星学園大学非常勤講師の滝口良氏が、都市部で深刻化する大気汚染の現状や、郊外に広がる「ゲル地区」と再開発の状況、市民の健康志向の高まり等を紹介。



ウランバートル市 街中

また造園業でモンゴルに進出した和泉政義氏からは、「良いパートナーを見つけることが最重要、進出に当たっては十分な調査が必要だがチャンスは逃してはいけない」とのアドバイスがありました。

## 日インド国交樹立60周年 さっぽろ雪まつり“インド広場”から友好的メッセージ

2012年は、日本とインドの国交樹立60周年の記念の年であり、国内各地でインドとの交流事業が開催されます。インド政府は、そのキックオフイベントとして、去る2月6日(火)から開催された“第63回さっぽろ雪まつり”において、大通7丁目会場(HBC広場)にタージ・マハールの大雪像やインド関連の店等、「インド広場」を設置しました。



舞踊団による演舞



インド共和国観光大臣によるスピーチ

インド共和国観光大臣スポドゥ・カント・サハイ閣下が初めて開会式に参加され、ユネスコ世界遺産であるタージマハールの大雪像をバックに、これまでの両国の相互理解への感謝と、今後益々の親交の約束をされるなど、大勢の市民や観光客に大きなメッセージを熱く伝えました。

また、世界最高レベルのインド舞踊団“Ticket to Bollywood”もムンバイから来訪し、雪まつりのステージで繰り広げ、華麗で芸術的な踊りに、会場は大きな賑わいを見せました。インドのテレビ局は、雪まつりの取材をはじめ、札幌及び近郊の観光の魅力、市民との交流場面などをくまなくインドへ発信しました。

両国の交流が今後ますます交流拡大していく中で、札幌市では、2011年よりインドのメディアや旅行会社を積極的に招請しています。ITやコンテンツ産業など、札幌・北海道が誇る優れた科学技術分野を通して相互に協力することが可能です。ハリウッドに代表される映像業界にも精通するインドは、アジアでも映画の舞台となっています。

地元の窓口を務める北海道名誉観光領事のダニエル・マンスカニ氏は、両国の友情の歴史が新たに札幌から発信されることを大いに喜び、2012年を通して経済・文化・観光など、あらゆる分野の人々の交流が活発になることを期待しています。



市長表敬の様子

国際プラザは、今回のイベントに当初から関わってきましたが、観光及びMICE市場としても、両地域の連携協力を強化し、さらなる発展を目指す一翼を担いたいと考えています。



雪まつり会場にて

## 「外国につながる子ども」から多文化共生を考える ～子どものための多文化共生シンポジウム～

海外からの移住や国際結婚等により、多様な文化的背景を持つ子供が増えていきます。このような子供を取り巻く現状や課題、支援策について考えようと、1月21日(土)にシンポジウムを開催し、89名の参加者と共に理解を深めました。

愛知淑徳大学非常勤講師の松本 一子氏による基調講演では、国の受入施策、他地域の取組み、課題等についてお話し頂きました。「アイデンティティの形成にも関わる」と、母語の重要性についても指摘されました。

パネルディスカッションでは市内の学校教諭やサポーター団体の皆さんが、多様な立場からの現状、課題について意見交換を行いました。「個々のニーズにどう対応するか」「保護者と学校とのコミュニケーションも重要」などの意見を共有しました。

今後の取組みに向け「地域全体でサポートできるように」「担い手同士がチームとして動きましょう」と、思いを新たにしました。アンケートでは「自分ができるところを考えた」「活動してみたい」という感想も多く、参加者にとっても、ひとつのきっかけとなったようです。



松本一子さんによる基調講演

## みんなでプラザに遊びにしよう！ ～外国につながる親子向けに「プラザこどもDAY！」開催～

1月7日(土)に開催した「プラザこどもDAY！」は、「外国につながる子供達や保護者の皆さんに、気軽にプラザに遊びに来てもらいたい」と思いで企画しました。

当日は、韓国、バン格拉デシユ、フィリピン、ポリビア等のバックグラウンドを持つ親子5組(子供9名、保護者8名)がサロンを訪れました。

お正月の遊びを楽しんでもらおうと、サロンには福笑いやかなた等お正月の遊びを用意し、参加した子供達は元気いっぱいに遊びました。

日本で生まれ育った子供、来日したばかりの子供など、参加者の背景は様々で

## 多言語でわかりやすく情報発信

「みんなのラジオ」

平成20年度から定期放送を開始した国際プラザの多言語FM放送「みんなのラジオ」。今年度は5カ国の国際交流員による週替わりの外国語と、やさしい日本語を交えて2011年7月1日(金)から2012年1月27日(金)までの毎週金曜日、合計30回の放送を行いました。札幌の外国人住民や外国からの観光客、国際交流に関わる皆さんの気取らないおしゃべりは、多くの方々にとって身近にある多文化共生に気づきき

す。子供達は徐々に打ち解け、一緒にゲームをしたり、絵を描いたりして楽しみました。かるたはみんなで大いに盛り上がりました。

子供と一緒に来てくださった保護者同士の会話も弾み、親子での出会いにつながった様子でした。これを機に、

日常的にサロンに立ち寄ってくださる方が少しでも増えると思っていると嬉しく思います。



サロンでお絵描き！

かけとなったのではないでしょう。番組は、インターネットを通してたくさんの方に視聴して頂きました。

「みんなのラジオ」は、今年で4年間の実証実験を終了します。災害時に情報弱者となる可能性のある外国人への情報提供について、国際プラザは今後もさらに効果的な方法を探っていきます。



週替わりで5カ国の交流員が出演

## 災害が起きたらなにをする？ どこへ行く？

「札幌国際プラザ防災事業」

「留学生のための防災体験ツアー@札幌市民防災センター」(11月26日(土)実施)

札幌市民防災センターにて中国からの留学生が地震や消火訓練等を体験しました。体験訓練後には、館長より災害・防災についてお話を伺いました。地震が発生したとき、何をすれば良いのか、避難所とはどのようなところか。参加者は真剣に耳を傾けました。「防災マップ」を使い、自宅最寄りの避難所を確認し、「大学が避難場所に指定されているので、災害時は大学へ向かいます」と、留学生の安心にもつながりました。



避難所の場所を確認！

## 今後の取組みに向けて...

東日本大震災以来、災害・防災への意識が高まっています。今後の取組みの参考とするため、初めて「ひまわり連合自治会防災会冬季防災訓練」(2月5日(日))に、外国人住民3名と共に参加しました。

拓北地域6町内会が構成される同連合自治会では、地域における防災活動に長く取り組んでいます。当日は厳冬の避難体験として、電気・水道・ガスが寸断された状況を体験し、改めて冬期間の災害について考えました。国際プラザでは、今後も多文化共生の地域づくりの中で、防災の取組みをすすめます。

## 多様な担い手の つながりを活かして 多文化共生ワークショップ

多文化共生の地域づくりを進めるには、市民団体や自治体などの多様な担い手の連携が大切です。道内の自治体や市内のサポート団体等との顔の見えるネットワークづくりを目指し、2010年より2年間「多文化共生ワークショップ」に取組んできました。



グループディスカッション

今回は2年間の「まとめ」と位置付け、主催者である北海道国際交流・協力総合センター（HIECC）と国際プラザより、他団体等との連携で実施した事業を紹介しました。

続くグループディスカッションでは、主催者側が来年度に向けて計画している事業を題材に、このワークショップを通して生まれたつながりをどのように活かせるか等の意見交換を行いました。参加者それぞれの視点からのアイデアが生まれ、今後に向けて、より一層「つながり」の重要性を感じるディスカッションとなりました。

多文化共生ワークショップは今回で最終回となりましたが、今後もそれぞれの活動に生き生きと取組みながら、このネットワークを大きな力として、多文化共生の地域づくりを進めたいと思います。

## 国際結婚カップルへ 「遺言のススメ」 弁護士による法律セミナー

11月12日(土)、外国人法律支援ネットワークとの共催により「外国人の相続問題」弁護士による法律セミナーを開催しました(英語通訳つき)。

テーマは日本に長く住む外国人や国際結婚カップルの生活に深く関わる、相続問題。日本では一般的にどのようなルールで相続が行われるか、財産が二つの国にある場合に遺言はどのように残せばいいかなど、具体的な事例をあげて、弁護士がわかりやすく解説しました。セミナーは和気あいあいとした雰囲気で行われ、17名の参加者からは「国際結婚をしている私たちに必要な情報でした」「これから、長く札幌に住む外国人のための事業を行ってほしい」などの声が聞かれました。終了後は弁護士による無料法律相談が開催されました。

国際プラザでは、外国人住民が安心して生活できるための取組みを、今後も続けていきます。



ユーモアを交えた、わかりやすい解説

## さっぼろで子育てを楽しもう! 外国籍の父母を対象に 母子保健セミナーを開催

10月23日(日)、国際プラザ、SEMI(札幌医療英語通訳グループ)の共催により、国際プラザ交流サロンにおいて、小さなお子さんを育てている、あるいはこれから出産や子育てを予定している外国籍の父母を対象に、母子保健と子育て支援サービスについて紹介するセミナーを開催しました。

当日は5カ国7名の父母が参加。日英で実施した同セミナーでは、札幌市保健福祉局保健所健康企画課の酒井彩さんを講師に迎え、妊娠から出産、お子さんの出生から3才までの保健制度や子育て支援サービス

## 医療英語・医療通訳セミナー 医療現場で役立つ表現や 勉強法を学ぶ

11月3日(木)、4日(金)の2日間、医療英語教育者として活躍されている押味貴之氏をお招きし、医療英語・医療通訳セミナーを開催しました。

今回で6回目となる当セミナーは「医療現場で役立つ使える英語」をテーマに、医療通訳に興味がある方のための「入門編」、医療に従事されている方や医療通訳ボランティアとして活動されている方などを対象とした「スキルアップ編」、今回初めて実施した「医療従事者編」の3部で実施されました。

スについて案内。勤医協菊水子ども診療所医師の福山桂子氏のご協力を得て、乳幼児期の疾患などについての詳しい情報も提供いただきました。また、札幌市が計画中の予防接種のしおりの英語版作成について、参加者から意見を聴取。少人数ながらも有意義なセミナーとなりました。



意見交換の様子

講師のユーモアのある、分かりやすい説明に、小グループでのアクティビティも加わり、とても楽しく賑やかな雰囲気での講座もあつという間に時間が過ぎてしまいました。

参加された方々からは、今後の開催予定を尋ねる方も多く、医療通訳・医療英語への関心の高さがうかがえました。



ユーモアをまじえた説明

## 行動しよう！学生によるボランティア活動を通したまちづくり ～学生国際合同セミナー2012開催～

姉妹・友好

都市である中国瀋陽と韓国大田からの学生17名と、留学生を含む札幌圏在住の学生13名、計30名の大学生が、2月11日(土)から22日(水)までの12日間にわたって、「行動しよう！学生によるボランティア活動を通したまちづくり」のテーマのもと、ボランティア活動に関する講義や「小樽雪あかりの路」をはじめとした活動体験、市民ボランティア活動団体へのヒアリング、震災ボランティアに取組む学生団体との意見交換、日中韓混合チームによるグループディスカッションなどをしながら体系的に学びました。



各国自慢の料理に挑戦



活動報告会の様子

期間中は、様々な交流の場として、市

内4校にご協力をいただき小学校訪問をしたほか、国際プラザの「レッツトーク・瀋陽&大田スペシャル」で出身都市の紹介をするなど、多くの人々と出会い交流することもできました。

最終日の活動報告会では、3カ国のボランティア活動について紹介するとともに、グループディスカッションを通じて話し合ったボランティア活動について発表し、このセミナーで学んだことを今後の決意表明として宣言しました。また、報告会に参加した市民の方ともボランティアに関するフリートークを行い、意見交換の場となりました。

学生たちは、このセミナーによってボランティアに関する知識を深めるだけでなく、ときには言葉や文化の壁にぶつかりながらも熱い友情を育み、築いたネットワークを今後も生かして活躍することを誓い合いました。

## 冬の札幌で高校生活を体験！ ～ポートランド市グラント高校 冬期札幌研修受入～

姉妹都市であるアメリカ・ポートランド市から、日本語イマージョン教育を受けてる高校生5名が来札し、短期研修を行いました。幼稚園から日本語教育を受けてきた彼らは、一般家庭にホームステイをしながら市立高校に通い、授業や部活を体験しました。また、各自のテーマ研究や、地域でのボランティア活動にも積極的に取り組みました。

期間中は平岸高校の生徒と雪まつり大通会場で雪像を共同作成したり、レッツトーク(2月7日(火))やワールドカフェ(2月11日(土))で多くの札幌市民と直接会話する



札幌の高校生と雪像を共同作成

など、様々な交流プログラムにも参加し、15日間の充実した研修を終えました。グラント高校からは今夏も約20名の生徒が来札し、夏期研修を行う予定です。

## 大田から初めての小学校訪問団が来札！ ～大田小学生受入プログラム 「みらいづくりプロジェクト」～

2月10日(金)～15日(水)の6日間、韓国・大田広域市 田民(チョンミン)小学校のチェ・ジェソン校長と5年生児童12名が来札しました。同小学校には2011年10月に札幌から市民訪問団が訪れており、今回、相互訪問が実現した形になりました。滞在中、子どもたちは一般家庭へのホームビジットや子ども会との交流会など、幅広い年代の札幌市民と触れ合いました。2月13日(月)の大倉山小学校訪問では、同小学校の5年生83名と交流しました。子どもたちは事前に勉強を重ねてきたお互

いの国の言葉で挨拶を交わし、すぐに打ち解けていました。二つの小学校の間でこれからはスカイプを用いて交流を続けるというアイディアも出ました。

2月14日(火)には札幌ばんけいスキー場でスキーを体験しました。雪の少ない大田の子どもたちにとつて、たくさんさんの雪に覆われた札幌の冬はとても魅力的だったようです。

姉妹都市である札幌の冬の魅力を満喫するとともに、出会った人々との温かい交流を通じて子どもたちの心に札幌への親しみが生まれる訪問となりました。

主催…札幌姉妹都市協会  
共催…(公財)札幌国際プラザ  
※この事業は、さぽーとほつと基金(寄付者…株式会社太陽グループ代表取締役社長 東原俊郎様)の助成により運営されました。



大田の小学生・日本の給食を体験



子ども会との交流会

## 姉妹都市との 民間交流を推進

〜大田市民訪問団受入〜

2月4日(土)〜7日(火)の日程で、大田姉妹都市委員会・金政泰(キム・ジョンテ)委員長を団長とする、48名の市民訪問団が北海道を訪問しました。参加者は雪まつり会場等で、寒さと雪を魅力に変える札幌のまちづくりを見学しました。

2月6日(月)、札幌姉妹都市協会は同委員会と、今後の両市民の相互理解と友好を深めるため民間交流を活性化する旨の合意書を交わしました。



合意書の交換

## 各国を知るセミナー

中国版ツイッター「中国人の生活を変えた!?

〜第29回中国を知るセミナー〜

12月20日(火)、「第29回中国を知るセミナー」を開催しました。テーマは「中国版

ツイッター」〜中国人の生活を変えた!〜」、講師は中国国際交流員の賀小雲さん。着任後、初めて

のセミナーで、少し緊張した様子でしたが、現在、中国で人気を集めている中国版ツイッター「新浪微博(シナ・ウェイボー)の特徴や、新浪微博を利用し、様々な事件を伝えている機能など画像も交えながら、紹介しました。

当日は約60名の参加者の皆さんにとって、日本ではなかなか聞けない中国版ツイッターの話で、一層中国のことを知る貴重な機会となりました。



中国国際交流員 賀小雲さん

ロシアに住んでいる人はみんなロシア人?

〜第31回ロシアを知るセミナー〜

1月26日(木)、「第31回ロシアを知るセミナー」を開催しました。ロシア国際交流員マキシム・サゾノフさんが「ロシア

に住んでいる人はロシア人?」をテーマにロシアに住んでいる様々な民族の暮らし方や文字の違いなど、各民族の特徴を映像を交えながらわかりやすく語りました。



ロシア国際交流員  
マキシム・サゾノフさん

当日は約80名が参加者し、「もっとロシアについて知りたくなりました」「レッスントークロシア語にも参加してみたいです」などの感想が寄せられました。会場ではロシアの音楽が流れ、ロシアのおもちゃや小物などを展示。参加者は珍しそうに眺めていました。

ベルリンの壁崩壊の裏話

〜ドイツを知るセミナー〜

2月27日(月)、「ベルリンの壁崩壊の裏話」をテーマに、ドイツを知るセミナーを開催しました。



ドイツ国際交流員  
クリスティアン・フィーツェックさん

講師のドイツ国際交流員クリスティアン・フィーツェックさんは、ベルリンの壁が崩壊した時に、東ドイツのポツダムに住み、崩壊後すぐに西ドイツへ引越しました。セミナーでは壁ができたきっかけを初め、壁が崩壊するまでの経過や自らの体験について詳しく説明し、最後に「グッバイ、レーニーン」や「善き人のためのソナタ」などドイツの生活について理解を深めることができる映画を紹介しました。

講演後は、約80名の参加者の皆さんから「ドイツの歴史や文化についてのセミナー」、「ヨーロッパ各国のセミナー」を開催してほしいなどのリクエストもいただきました。

Let's Play ハンゲル  
〜学生スぺシャル〜

12月17日(土)、「Let's Play ハンゲル」学生スぺシャル」が開催されました。中学生と高校生17名の学生が参加し、韓国文化について学び、韓国人留学生4名と一緒ににチームを組んで韓国のゲームを楽しみました。

前半は講師の韓国国際交流員カン・ミンジョンさんが韓国の学校や生活、ニュースなどを紹介。後半は前半の話を復習できるようにO×クイズ、韓国でよく知られているSPEDクイズを行い、参加者はより韓国への理解を深められた様子でした。他にも韓国語による自己紹介や、体で表現する韓国式じゃんけんなどを行い、韓国人留学生との交流を深めました。韓国をより身近に感じ、新たなことを知る良い機会となりました。



熱心に話を聞く参加者たち

## アメリカンコーナー・2周年記念イベント

アメリカンコーナーでは恒例となったDVD上映会、子どもへの絵本読み聞かせなどイベントを行っています。2月4日(土)には、サロン内のアメリカンコーナー札幌開設2周年を記念して、昨年に引き続きスポーツイベントが開かれました。

アメリカ最大のスポーツイベントといわれる「スーパーボウル」が開幕する時期ということもあり、アメリカンフットボールがテーマ。在札幌米国総領事館のジョン・テイラー領事と地元チーム選手たちの解説・実演により、その魅力に迫りました。

テイラー領事からは、メジャーリーグを凌ぐ人気であることやゲームの醍醐味について、選手たちからはルールの説明を行いました。説明で分かりづらいところは

その場で実演してくれ、ぶつかり合う迫力に参加者は圧倒されていた様子でした。参加者たちは選手たちとの交流も楽しみ、イベントは盛況のうちに終了しました。



ゲームの実演をする選手のみなさん

## 体験しよう！日本のお正月

留学生支援事業

外国人が地域の住民と気軽に交流し、顔の見える関係を築ききっかけとするために、国際プラザでは様々な異文化交流イベントを企画しています。今回は、一年で最も日本らしい雰囲気味わえる師走・お正月にあわせて、二つのイベントを開催しました。

12月10日(土)、札幌大学が福住町内会と協力して毎年恒例で行っている「もちつき大会」の会場で、外国語ボランティア観光日本文化グループが折り紙人形作りや茶道の体験を楽しめるブースを開設しました。

また、12月27日(火)には札幌圏大学国際交流フォーラムとの共催で、日本のお正月を紹介するイベントを交流サロンで開催しました。参加した80名を超える留学生は、年賀状作りやかたるた大会を通して、楽しみながら伝統文化を体験しました。

町内会・ボランティアの皆さんの交流を楽しむと同時に、学校を超えた留学生同士のつながりも生まれました。



かたるた大会は大人気

## ひな祭り

### 日本文化を体験

2月25日(土)、国際プラザ交流サロンにおいて、毎年恒例となった「ひなまつり」イベントが開催されました。

毎年、ボランティアさんによる様々な企画で楽しませてくれるイベントですが、今年はギター伴奏と歌手の方によるコンサートで幕開け。「朧月夜」の他数曲と、参加者と一緒「うれしいひなまつり」を歌いました。コンサート終了後は各コーナーにて、和紙折り紙体験や、抹茶と和菓子などを楽しみました。和ものバザーでは小物やゆかたなどが参加者の目を引きました。バザーの収益金一万八千七百十円は震災復興義援金として、日本赤十字社へ寄付されました。



バザーの様子

## 2012カレンダーリサイクル市

不用カレンダーで国際協力

1月6日(金)から12日(木)まで、札幌市民ホール、かでの2・7、ラルズプラザ札幌の3会場で、2012カレンダーリサイクル市が開催されました。企業や家庭

で使用しないカレンダーを寄贈いただき、販売することで、カレンダーを有効活用し、環境保護につなげる取り組みで、今年で25回目を数えました。

収益金三百四十三万九百三十二円は、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)の「みどり一本」運動、東日本大震災教育支援などに寄付されます。



## パネルを通じて知る NGO活動

NGO活動紹介パネル展を開催

札幌をはじめとする北海道の方々にNGO団体の活動を知っていただくことを目的として、去る12月19日(月)から22日(木)までの4日間、札幌市役所本庁舎1階ロビーにおいて、「NGO活動紹介パネル展」を開催しました。

今回のパネル展には、12のNGO団体等が参加し、各団体の活動紹介や、活動対象国や地域の様子を紹介。期間中は約200名の市民の皆さんにご来場いただきました。



## 国際観光コンベンション フォーラム in 富士 開催 全国から100名のMICE関係者が参加!

2011年3月の開催予定が東日本大震災の影響で延期となっていた「国際観光コンベンションフォーラム2011 in 富士」(日本コンベンション研究会主催、「事務局」国際プラザ、コンベンション札幌ネットワーク)が、2011年11月28(月)、29日(火)の両日、静岡県の富士市文化会館ロゼシアターで開催され、全国の観光コンベンション関連の団体・企業、行政機関などから100名が参加し、MICEの振興に向けて熱い議論がかわされました。



初日は、まず原忠之氏(セントラルフロリダ大学ローゼン・ホスピタリティ経営学部准教授・副学部長)が「観光・MICEビジネスの課題と展望」と題し、MICE産業の可能性について基調講演を行いました。引き続き行われた、パネルディスカッションでは、「JAPAN MICE再生に向けて」をテーマに、4名のMICE実務専門家が、アジアと日本の現状を比較しながら、震災を経た日本のMICE再生に向けての展望を議論しました。

### 2つの分科会では活発な意見交換を展開

2日目は、ラウンドテーブルミーティングスタイルで分科会2つを開催。第1分科会は「地域からの発信とおもてなし」、第2分科会は「IT・MICEーMICE新時代を探る」と題して、それぞれの事例が紹介され、参加者と活発に意見が交わされました。

### 静岡ならではの企画

フォーラムの中で、前田富佐男氏(株)前田金三郎商店代表取締役)による特別講演「やっばり、すばらしき日本茶」と、会場での日本茶インストラクターによる呈茶サービスもあり、参加者は静岡のおもてなしを存分に体験しました。恒例のエクスカーションには40名が参加。B級グルメグランプリ「富士宮やきそば」を味わった後、沼津御用邸などを見学。同東附属邸の和室では「国内MICEを考える」と題したミーティングを開催し、関係者が車座になって熱く語り合いました。

なお、次回同フォーラムは、東北地域での開催を検討することとなりました。



### 「グリーンMICE」を積極的に推進!

#### 札幌市グリーンMICE推進奨励賞スタート

札幌市では、2011年9月、札幌市グリーンMICE推進奨励賞制度をスタートし、札幌におけるグリーンMICEを一層推進していくことを定めました。

この制度は、環境に配慮した会議運営を実施する主催者に対し、札幌市長名での推進奨励賞を授与するもので、受賞第1



生島副市長による推進奨励賞 授与式

号となる「サステイナブルキャンペーン国際シンポジウム2011」をはじめ、5件が受賞しています。国際プラザでは、2009年度から国内で先駆的に実施してきた「グリーンMICE推進サポーター」制度と併せ、今後も環境配慮への取り組みを進め、札幌のMICE誘致力の強化を目指します。

### Greener Week 2011の実施

国際プラザでは、環境団体等と連携し、地球環境の保全をより強力に推進するためのイベント「Greener Week 2011」を実施。10月24日(月)から11月6日(日)までの期間中、多彩なプログラムを展開しました。札幌地下歩行空間でのUstreamスタジオ開設を始め、自然との共生を学ぶ「アイヌ文化・バイオマス見学バスツアー」、白旗山植林体験等をサポート。北海道大学サステナビリティ・ウィークの一環、パネルディスカッション「Greenerになる! 持続可能な北海道のために」を開催し、Ustream配信を行いました。



Ustream スタジオ

これらは、市民の環境意識の醸成を図るとともに、国際プラザが推進するグリーンMICEの振興と市民理解を進めていくためのものであり、今後も継続的な事業展開を図ります。

### NPO法人コンベンション 札幌ネットワークとの連携

国際プラザでは、コンベンション関連企業で組織するNPO法人コンベンション札幌

ネットワークとの連携により、コンベンションの振興・発展のための様々な活動を行っています。2011年度はMICE事業に携わる人材の育成、コンベンション参加者向けのコンテンツ整備などを共同で取り組みました。

2011年9月から11月にかけて実施したMICEアカデミーでは、MICEに関わる人材育成を目的として、業界関係者等向けの「企業セミナー」、未就業の初心者向けの「入門セミナー」および中級者向けの「スキルアップセミナー」を開催。施設見学や模擬プレゼンテーションなど実践的な内容も多く、参加の方々から好評を得ました。次年度以降は、さらにもう1部門を増え、ますます充実した内容が期待されています。

また、コンベンション参加者向けコンテンツ整備として、BRAWプロジェクト事業を実施しました。北海道の委託事業として、札幌商工会議所も含めた3者のコンソーシアムにより行ったこの事業では、MICEコンテンツとして、ランニング・ウォーキング・自転車(Bike, Run, and Walk=BRAW)向けの二セコ・札幌両地区の日本語版と英語版の2種類の地図を制作。WEB上でも、その10倍以上の多彩なコースと詳細な情報を提供する斬新な取組みとなっています。また、3月には網走、二セコ、札幌の道内3カ所での北海道のスポート観光とMICE振興」と題するセミナーも実施し、道内でも関心が高まる同分野の関係者が数多く出席しました。



MICE アカデミー【入門セミナー】の様子

詳細は → [http://networkmsh-net.jp/news\\_list/news\\_detail/detail\\_2012\\_01.html](http://networkmsh-net.jp/news_list/news_detail/detail_2012_01.html)

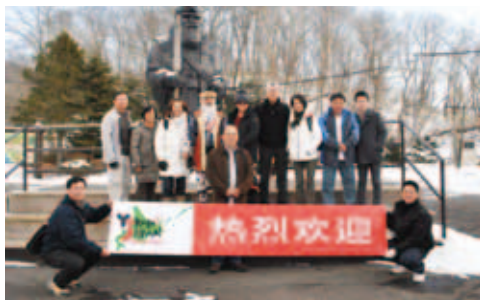
## アジアのインセンティブツアー復調、新たな市場参入へ

国際プラザ・コンベンションビューローでは、昨年の東日本大震災直後から、海外見本市や招請事業でのプロモーションを積極的に行ってきました。政府の風評被害払拭のためのさまざまなキャンペーン事業の効果もあって、下半期に入り、札幌でのツアー再開が増え今冬、台湾やシンガポールから大型インセンティブツアーが北海道にて実施されています。

このような中で、札幌市では、MICEにおける新興市場の開拓にも注目し、「札幌MICE総合戦略」においては2012年度のMICE誘致活動のターゲット市場をマレーシアとしています。同国は、2011年12月に180名規模のインセンティブツアーを北海道へ送客し、また今年1月に入り、VJ（ビジットジャパン）地方連携事業として、北海道登別洞爺広域観光協議会が、マレーシア旅行会社のインセンティブ担当者を招請し、登別・洞爺・札幌の視察ツアーを実施しました。さっぽろ雪まつりに

は、駐日マレーシア大使ダト・シャハルディン閣下が来札され、同国からの送客数の確実な増加と、震災後にあった不安の解消に言及するなど、今後の交流促進に大きな期待を寄せています。

国際プラザでは、中国・韓国・台湾・香港などに加え、今後新たなインセンティブツアーの誘致を拡大していくためにも、シンガポール・タイ・マレーシアなど、新しいMICE市場の情勢を把握し、さらなる相互ネットワークの構築を行い交流拡大につなげていきたいと考えています。



広域連携での歓迎の様子

## 中国市場に攻勢を！「さっぽろMICE」の魅力をPR

札幌市がインセンティブツアー誘致の重点地域に挙げている中国本土からの来訪者は、東日本大震災の発生後しばらくの間途絶えていましたが、年末より徐々に戻りつつあります。国際プラザ・コンベンションビューローでは、震災後も中国の国際MICE見本市への出展をはじめ、現地の企業や大手旅行会社の関係者を対象としたMICEセミナーの開催や視察の受入など、今後のMICE誘致強化に向けた事業を展開しています。

### ～北京におけるさっぽろMICEプロモーション～

11月上旬には北京市を訪問し、国際プラザとして海外で初の実施となる『さっぽろMICEセミナー』を開催しました（共催：札幌市、協力：日本政府観光局（JNTO）、中旅国際会議展覽有限公司）。

このセミナーでは、出席した14社22名の企業関係者に対し、雪・自然を使った体験プログラムの提案や、よさこいソーランなど北海道ならではのアトラクションを紹介するなど、存分に魅力をPRしました。参加者からは、「北海道・札幌は、私たちにとってあこがれの場所。ぜひ、近いうちに、インセンティブツアーで訪問したい」との声が多く聞かれました。また、北京訪問中には現地の大手MICE関連旅行会社や、ICT関連の企業が集まる会員クラブの事務局等を訪問し、札幌の魅力を伝えました。

### ～ジャパンインセンティブショーケース～

12月中旬には、観光庁主催の「ジャパン・インセンティブ・ショーケース」において、中国の4都市から17名のMICE関連旅行会社の関係者が日本を訪れました。その中で、札幌では上海と広州からの9名を受け入れ、3日間の視察プログラムを実施しました。参加者からは、「日本の

MICE関連施設はサービスが良く、安心してお客様を送り出せる。特に、今回の視察を通じ、北海道・札幌の皆様の心温まるおもてなしに感動した」との声をいただきました。

### ～中国MICEキーパーソン招請事業～

2012年2月29日(水)から4日間の日程で、北京より6名のMICEキーパーソンを招請し、視察プログラムを実施しました。アイヌ民族の伝統芸能や市電車内（貸切）での模擬パーティー、定山溪温泉などが大変好評で、北海道・札幌の魅力を存分に体験していただきました。また、期間中には中青旅（北京）国際会議展覽有限公司の王守智副総裁より、中国MICE市場の開拓に向けてのアドバイスを伺いました。王副総裁からは、「北海道は自然が豊かで、大都市からやってくる人々がリフレッシュする上で最適の場所。自然を『名刺』として、積極的に中国などへ足を運びPRすれば、必ず多くの人を訪れるはず」とのアドバイスをいただきました。



寿司握りにチャレンジ！

## 国際会議海外キーパーソン続々と札幌へ 平成23年度国際会議海外キーパーソン招請事業「Meet Japan 2012」

2011年度の日本政府観光局主催による国際会議海外キーパーソン招請事業「Meet Japan 2012」が2月28日(火)からの3日間、札幌で開催されました。

当事業は、毎年、国際会議の誘致活動においてキーパーソンとなる国際団体の会長、ミーティングプランナーなどを日本へ招請し、都市視察及びコンベンション推進機関との商談会を実施することで国際会議の日本への誘致成功を目指すものです。本年は、アメリカ、



Meet Japan 2012 商談会

イギリス、フランス、スイス、韓国などから11名のキーパーソン招請に加え、国内関連学会から7名が参加しました。

### ＜札幌ならではのプロデュース力でおもてなし＞

本事業の札幌開催にあたり、国際プラザ・コンベンションビューローでは、2月28日(火)、モエレ沼公園・ガラスのピラミッドにて札幌市長主催の歓迎パーティーを開催しました。会場内には、「Sapporo Crystal Fantasy」をテーマに氷のバーカウンター、白樺の林、キャンドルツリーを配置し、あたたかい光と氷のきらめきで幻想的な雰囲気 연출しました。北海道産の食材を使用した美味しい料理と札幌ならではのユニークなパーティーは、寒い札幌の夜でもあたたかい時間・空間であったと参加者にも好評でした。



Meet Japan 2012 歓迎パーティーでの氷のバーカウンター

また、翌2月29日(水)にサッポロビール園で行われた日本政府観光局理事長主催のさよならパーティーでは、前日の雰囲気とは打って変わってエネルギーあふれる勇壮なよさこいソーランの演舞をご紹介します、参加者の思い出に残る札幌最後の夜を演出しました。

### ＜国際会議の札幌誘致へ向けたPR＞

2月29日(水)には、全国各地のコンベンション推進団体と海外キーパーソンの商談会が開催され、国際プラザ・コンベンションビューローも参加し、7件の商談を行いました。札幌コンベンションセンターなどコンベンション施設の紹介をはじめ、市民ボランティアによる日本文化体験や外国語ボランティアの派遣、環境配慮型の会議運営方法など、国際プラザのサポートプログラムを紹介し、札幌開催を働きかけました。

### ＜MICE シティ札幌を案内＞

最終日には、海外キーパーソンおよび国内コンベンション推進団体の参加希望者に対し、札幌市内視察ツアーを実施し、札幌コンベンションセンター、大倉山ジャンプ競技場を案内しました。

国際プラザの20年を超える経験によって培われた演出力とあたたかいおもてなしの心で国際会議観光都市・札幌が、安心して会議を開催できる都市であることをPRすることができました。本事業で得た海外キーパーソンとのネットワークを活用し、引き続き、札幌の魅力を伝え、国際会議の札幌誘致成功を目指したいと思います。

## “さっぽろMICE”の魅力、全国へ発信 ～“北海道MICE懇談会”開催と“IME2011”出展～

国際プラザ・コンベンションビューローでは、「北海道コンベンション誘致推進協議会」の一員として、道庁・旭川・函館・釧路・北見と共に首都圏を中心とした全国のMICE主催者・関係者へのPR活動を1997年より行っています。

2011年11月16日(水)、北海道のMICEの魅力 PRする『北海道MICE懇談会』を、第一ホテル東京を会場として開催しました。各種学会・協会などのMICE主催者とPCO(会議運営会社)や旅行代理店などのMICE企業担当者、合わせて66団体・企業より81名にご参加いただき活発な情報交換を行いました。

また同年12月14日(水)から2日間にわたり東京国際フォーラムにて開催された、国内唯一のMICE見本市『国際ミーティングエキスポ(IME)』では、2,700名を超える来場者に対しMICE開催に向けての商談や情報交換を行いました。11月の事業を通じたネットワークを活かしたフォローアップに繋げていきます。



国際交流員の退任挨拶

姜旻廷 (カン・ミンジョン)さん



アンニョンハセヨ。(こんにちは)  
私は2008年4月から韓国国際交流員として働いているカン・ミンジョンと申します。いつの間にか4年間という時間が経ち、離任のあいさつをしなければならぬ時間になりました。とても寂しいかぎりです。  
4年間を振り返ってみると沢山のことを学び、楽しい思い出を作りました。たどたどしい日本語ですが、市長の通訳をしましたし、札幌と大田の姉妹都市提携の仕事にも携わることができました。また、レッツトークハングルや韓国を知るセミナーなどを通して、市民の皆様との交流もしました。個人的には、スキーも滑るようになりましたし、よさこいソーラン祭りにも参加させていただき、準優勝という快挙もあげることができました。数え切れないほどの思い出と愛をいただいて帰ります。これから韓国に帰ったら、愛をこめて札幌のPRを沢山します。  
長い間、足りないところばかりの私を支えてくださった皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。また会いましょう～ カムサハムニダ(ありがとうございます)。

コンベンションカレンダー

国際プラザ・コンベンションビューローでは、札幌市内で開催が予定されている主なコンベンションで、主催者側から公表が許可されているもののみ、ホームページ上の「コンベンションカレンダー」にて公開しております。コンベンションカレンダーは半期に一度更新をおこなっており、約1年先までの開催情報だけでなく、既に開催された過去の情報も提供しておりますので、ご活用ください。

<http://www.conventionsapporo.jp/j/meeting/calendar/calendar.html>

国際コンベンション		
2012年		
4月	25th International Conference on Antiviral Research (ICAR)	(250名)
6月	第27回アジア消防長協会総会 (IFCAA2012)	(1000名)
7月	2012 International Conference on Business and Information (BAI2012)	(600名)
7月	第12回アジア歯科審美学会	(800名)
8月	The 34th Annual Conference of the Cognitive Society (CogSci2012)	(700名)
国内コンベンション		
2012年		
5月	第54回日本小児神経学会総会	(1500名)
5月	第55回春季日本歯周病学会学術大会	(2500名)
5月	第108回日本精神神経学会総会	(6000名)
6月	第57回日本透析医学会学術集会・総会	(10000名)
8月	第17回・第18回共催 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会	(5000名)

ありがとうございます

国際プラザは2011年度、法人化20周年を迎えました。サロンに設置した「プラザの木」は、皆さまから多くの励ましのメッセージカードをいただいたおかげで、青々と葉が生い茂っています。職員一同感謝・感激の気持ちを忘れず、これからも皆さまと一緒に歩み続けていきたいと願っております。



プラザの木

オリジナルMICE10年カレンダー  
好評配布中

札幌市と国際プラザ・コンベンションビューローでは、「冬・雪」をテーマに、札幌のMICE施設やユニークメニューを紹介するMICEカレンダーを新たに作成しました。10年仕様となっているため、数年先の案件を検討したり誘致する方にも便利にお使いいただけます。このカレンダーは、国内外のMICE専門見本市等でMICEの主催者向けに配布する他、地元のMICE関係者の方々にも配布いたします。ご希望の方は、国際プラザ・コンベンションビューローまでお問い合わせください。

Tel : 011-211-3675

